

博物館

網走監獄



1983年に開館した博物館網走監獄は、
旧網走刑務所の歴史的建物25棟を保存展示する野外博物館です。

移築復原された建物は、
19世紀後半から20世紀初頭にかけて建てられたもので、
現存する木造行刑建築物としては最古のものです。
2016年には、このうち8棟が国の重要文化財に指定され、
6棟が登録有形文化財として登録されています。

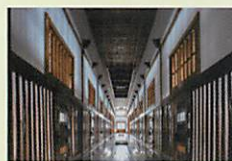
8棟の重要文化財

博物館に移築復原された旧網走刑務所の建物のうち8棟が、2016年国の重要文化財に指定されました。最果ての地で100年以上の風雪に耐え抜いてきた貴重な木造行刑建築群が、雄弁に語りかけます。

【重要文化財】

旧網走刑務所

二見ヶ岡刑務支所



移築復原
 建築年代:1896年(明治29年)
 移築年代:1999年(平成11年)
 面積:1,933m²

網走の西方丘陵地二見ヶ岡に、自給自足を目指して農場が造られました。この農場は開放的処遇施設として、作物の管理から収穫まで収容者が行いました。建物は、庁舎、舎房、教誨堂および食堂、鍵鎖付着所、炊場の5棟が渡り廊下でつながっています。重要文化財には、この5棟が指定されました。



神社



二見ヶ岡刑務支所 14



歴史館では中身開削の様子をリーンので紹介。



【重要文化財】

旧網走監獄 庁舎



移築復原
 建築年代:1912年(明治45年)
 移築年代:1988年(昭和63年)
 面積:500m²

ブルーとグレイの外壁と屋根につけられたドーマー窓が特徴で、明治期の典型的な官庁建築スタイルです。ここは典獄室、会議室、職員の執務室として1987年まで網走刑務所の管理部門の建物として使われていました。上げ下げ窓や天井のレリーフ、ストーブの煙突の穴には軟石に装飾したためがね石が嵌め込まれるなど、細部に施された装飾がポイントです。

登録有形文化財

博物館には6棟の登録有形文化財があります。囚人たちが監獄内のレンガ工場で焼いたレンガを使った裏門(1919年)、煉瓦造り独居房(1912年)と4棟の哨舎です。哨舎は見張所のことで、1880年に内務省が制定した図面にも基づいて造られています。



裏門



煉瓦造り独居房



哨舎

高見張り



15



窓



哨舎



舎房及び中央見張所

16

スター

道路の3面スク

監獄歴史館

13



漬物庫

12

耕耘庫

11



休泊所

10



味噌・醤油蔵

8



旧網走刑務所職員官舎

7



刑務所水門

6



裏門

5



哨舎

22

3

9

釧路地方裁判所
網走支部法廷復原棟



2

入館受付

1

監獄食堂



15 高見張り



重

重要文化財

有

登録有形文化財

じっくりコース (約120分)

早まわりコース (約60分)



トイレ



身障者用トイレ



休憩所



食事



売店(お土産)



Wi-Fi



コインロッカー

ミュージアムショップ& 喫茶コーナー

庁舎にあるミュージアムショップでは、
限定書籍やオリジナルグッズを販売して
います。また、喫茶コーナーも併設。コー
ヒーやスイーツが楽しめます。



展示・ライブラリー



喫茶コーナー



ミュージアムショップ

監獄食堂

網走刑務所の受刑者が食べている現在のメ
ニューを「監獄食」として提供しています。「監
獄食」は米7割麦3割のご飯とみそ汁、焼き魚、
副菜のセット定食。このほか、網走監獄和牛を
使ったハンバーグなど、多彩なメニューをご用
意。ぜひご賞味ください。



監獄食A



監獄食B

[アクセス]

■女満別空港からのアクセス

●車/20分 ●バス/25分(バスは網走駅までの時間)

■JR網走駅から博物館網走監獄までは約4km

●徒歩/約40分程度 ●車/約7分

■バス

●網走市内観光施設めぐり線

「博物館網走監獄」下車(季節運行となりました。)

●美幌行き

「天都山入口」下車

※ 網走バス株式会社のWebサイトで最新の時刻を確認下さい。

[網走バス]

TEL 0152-43-4101 <http://www.abashiribus.com/>



博物館

網走監獄

〒099-2421 北海道網走市字呼人1-1

TEL: 0152-45-2411 FAX: 0152-45-2338

<https://www.kangoku.jp>



【重要文化財】
旧網走監獄
舎房及び中央見張所

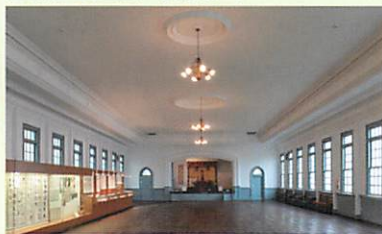


移築復原
 建築年代:
 1912年(明治45年)
 移築年代:
 1985年(昭和60年)
 面積:3,333.72m²

放射状に広がる5棟の舎房。1カ所から舎房全体を見渡せるように八角形の見張り所が設けられています。ここには独居房、雑居房合わせて226房あり、最大700名を収容できました。舎房の廊下には天窓がつけられており、クイーンポストラスの小屋組と鉄筋の開き止めが、美しい空間を造りだしています。舎房の堅格子(斜め格子)は、中から向かい側の舎房が見えないように工夫されているほか、堅いヤチダモの木で造られた扉は、外から施錠されていて中からは開けられない堅牢な造りが特徴です。

この舎房は、1984年まで網走刑務所の獄房として72年間にわたり使われていました。

【重要文化財】
旧網走監獄 教誨堂



移築復原
 建築年代:1912年(明治45年)
 移築年代:1981年(昭和56年)
 面積:404.87m²

囚人たちに精神的、倫理的、宗教的な指導を行うために設置された教誨堂は、「神仏が宿るところ」と、囚人たちが精魂込めて建てたと言われています。瓦屋根にお寺を思わせる和風建築の外観とは対照的に、内部は柱のない広い空間、腰高の板壁と漆喰の白い壁、天井のシャンデリアボックスに施された美しいレリーフと、洋風デザインが特徴です。



17 浴場



18 煉瓦造り独居房



19 独立型独居房

21 教誨堂



出口

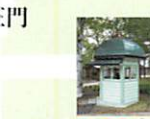
物産館



22 哨舎



物館を巡る前に、
 ず庁舎をご覧ください。
 舎では、囚人が切り
 いた北海道開拓の
 史と、重要文化財の
 どころを紹介した展
 コーナーがあります。



哨舎



鏡橋



川面を鏡にたとえ、「我が身を見つめ自ら襟を正す」という意味を込めて名付けられました。



重要文化財に指定された木造行刑建築群と
北海道開拓を担った網走監獄の歴史

ようこそ、博物館網走監獄へ。

北海道の集治監は、北海道開拓において重要な役割を担いました。

北海道開拓といえば屯田兵や入植団の活躍が知られていますが、開拓の礎となった囚人労働のことは、あまり知られていません。

明治時代初め、政府はロシア帝国の南下政策に備えるため、北海道開拓を急ぐ必要がありました。一方、国内では混乱が続き、士族の反乱などから数多くの政治犯、思想犯が収監されていました。そこで、北海道に集治監を設置し、囚人を労働力として使うことが考え出されたのです。網走監獄は、1890年に釧路集治監の外役所として開設され、1200人の囚人が、網走から旭川まで繋がる中央道路の開削にあたり、163kmをわずか8カ月間で完成させました。北海道の大地を貫く道路や鉄道も、農地も切り拓いたのは囚人たちでした。

博物館網走監獄は、北海道開拓の幕開けを語り継ぐ貴重な存在です。

その歴史に触れながら、風雪に耐えて100年の時を刻んだ木造行刑建築群をご覧ください。



博物館
網走監獄を
巡る前に

博物館網走監獄は、早周りで60分。ゆっくり歩くとおよそ120分かかります。スタートは、庁舎です。庁舎の展示コーナーでは、北海道の集治監の役割と、網走監獄の建物に施された日本の建築技術を紹介しています。博物館を巡る前に、ぜひご覧ください。